

# きょうと 京図

京都市図書館情報誌



# ものがたり

関西から  
文化力  
POWER OF  
CULTURE

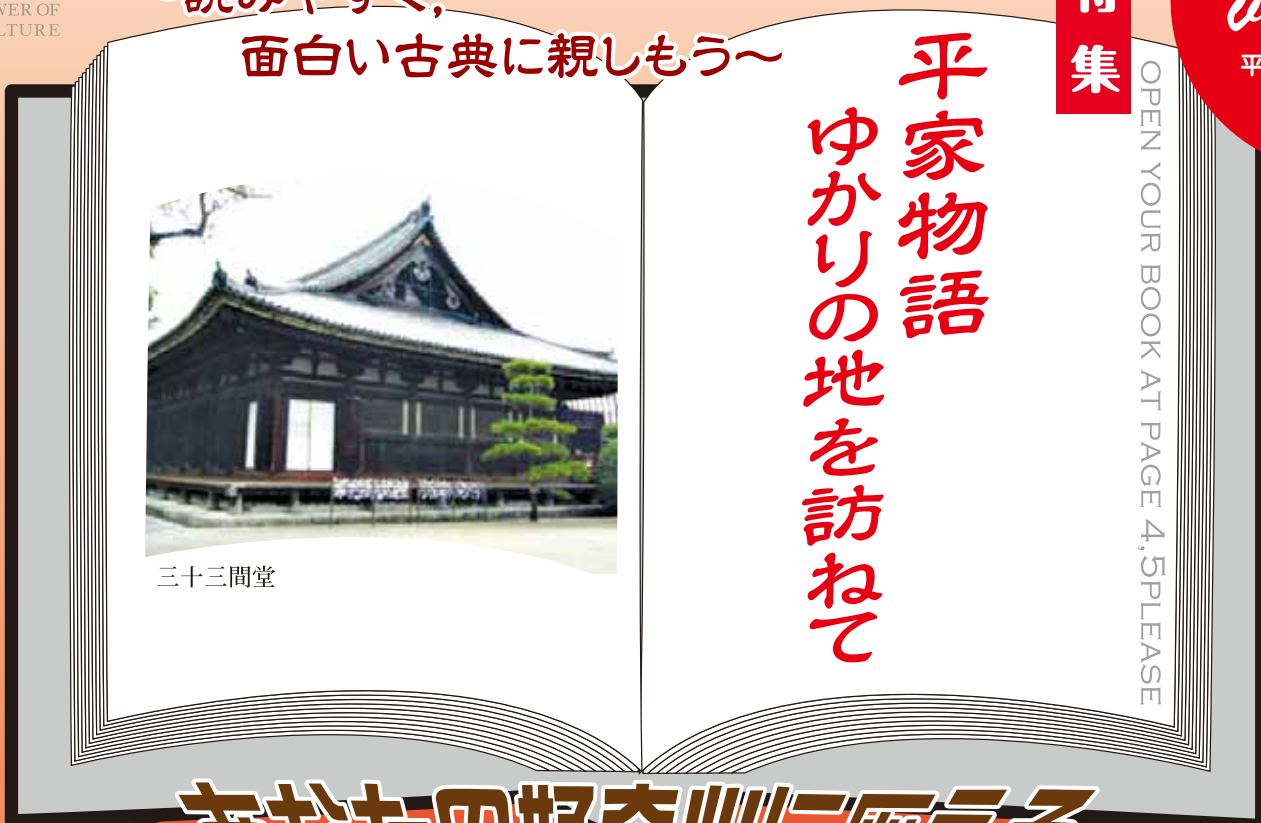
## 11月1日は古典の日です

～読みやすく、  
面白い古典に親しもう～

特集

vol.21

平成21年10月発行



## あなたの好奇心に答える

目次

② 寄稿「古典に親しんで」 京都大学名誉教授 上横手 雅敬

③ 図書館の特色紹介 南図書館

④⑤ 特集 平家物語 ゆかりの地を訪ねて

⑥⑦ 図書館小特集 東西古典合はせ

⑧ 利用者の声 読書の秋

⑧ 編集後記 平家物語の世界へ



京都大学名誉教授

上横手

雅敬

「古典」とは古今東西を問わず、ジャンルは別なく、模範として愛読されてきた書物をいう。しかしこれではあまりに漠然としていたので、ここでは日本古典文学に限定する。

過去をふりかえると、私は日本古典に親しんできたとはいいい難い。少年時代は『世界名作物語』の類を読んだ。その中に『平家物語』や『太平記』も含まれていたが、『ああ無常（レ・ミゼラブル）』や『ロビンソン漂流記』の方が面白かった。

旧制高校時代は確かに古典に親し

んだが、やはり日本古典よりも、ドイツ・フランス・ロシア文学などを愛好した。良識的で、健康な感じのする英米文学は、当時は人生に対する省察に欠けているように思えて、あまり好まなかった。勝手な偏見かもしれない。

小学校でも高学年になると、国語には文語体の教材が含まれていた。

『平家物語』などをやや平易に書き換えたものだと思うが、さほど難解ではないし、鶴越（たづなこし）や扇（あふぎ）のなどは、歯切れのよい文章とあいまって、血湧き肉躍り、少年たちの心を揺り動かすものがあつたはずだ。少年期から古典の文章に触れることができたのは幸いだつたと思う。

我々は、自国の古典を原文のままて読む訓練をしなければならない。それ故に古典には教室で接することが多い。しかし、「訓練」は本来楽しいものではない。これを最後に無味乾燥と見る古典から遠ざかる人が多い。ただ少数ながら、教室での出会いを契機に古典に親しむようになる人もいるのは喜ばしい。

私の場合、一般の人々と違って、研究者として古典を読む機

会が生涯継続してきたことである。

しかし研究資料として古典を読むのは、読書といえるかどうか、疑問である。古典に触れながら、古典を愛好していない研究者は少なくない。研究者はおおむね読書家とはいえず、趣味を聞かれて読書と答える研究者の多くは、実は無趣味というのが正しい。こういう具合で「古典に親しんできたか？」と聞かれると、私は自信が持てない。

「古典に親しむ」というのは、途方もなく優雅で、果たされたい贅沢のように思える。

古典に親しむことの勧めに移ろう。古典に親しむのは容易ではないが、やはり読んでいただく外ないし、そのためには読む気になつていただくしかない。読む気になるには、市民講座とかサークルは確かに有効である。その場合、ぜひ予習をお勧めする。あらかじめ自力で読んでみるのは楽しいことだし、講義の理解度も格段に高くなるはずだ。

日本古典を読む利点は原文に接することである。外国文学の場合、翻訳に頼らざるを得ないが、日本古典の場合、語学上の困難ははるかに少

ない。最近では文庫本でも、詳細で親切な注がついて、読みやすくなっている。

どんな古典がよいかというと、興味を持ってさえすれば、何でもよい。しかし読みやすく、面白いというところが重要な条件にはなる。この点ではどう考えても『平家物語』が圧倒的に勝れている。『平家物語』について、私は歴史学の立場から、気が済むまで追究するという方針で、いつ果てることもない講義を京都アスニーで開かせていただいているが、幸いに熱心なご支持を得て、十一月九日には五十回目を迎える。ご参加を歓迎する。

古典に親しんで 上横手 雅敬

## アスニーセミナー

『平家物語』を読む

日時 十月九日(月)・十月十四日(月)  
十四時～十六時

講師 上横手 雅敬

受講料 各八〇〇円

テキスト要・七四〇円(販売あり)

お申込お問い合わせ

京都市生涯学習総合センター(京都アスニー)

TEL 075-1812-7222

『平家物語』をじっくり読んでいきます。  
ぜひ御参加ください。

# 南図書館

京都市南図書館は、昭和54年6月21日に京都市社会教育会館南分館として開館しました。昭和56年4月の京都市中央図書館開設と同時に京都市南図書館と名称が変更され、地元に着した地域図書館となりました。その後2階に山王児童館が設置され、複合施設となっています。場所は、九条通竹田街道・大石橋を上る東側、京都駅からは東へ八条通竹田街道下る東側に位置しています。

玄関を入った左手のミニギャラリーでは「絵・書のひろば」として地域の六つの小学校児童の作品をそれぞれ2ヶ月間展示しています。また、特設展示コーナーでは、毎月テーマを決めて本を展示し貸出しています。

京都駅から一番近い図書館です。ぜひお立ち寄りください。



## ◆時代小説を読んでみませんか！

吉川英治、山岡荘八さんといった、少し以前の大河小説から、今 流行の佐伯泰英、鳥羽亮さんなどのシリーズものも多数取り揃えています。貸出されていることが多いので、お読みになりたい本がございましたら、お気軽に職員にお申し出ください。

## ◆絵本コーナー

絵本コーナーは、アレルギーの子にも安心なコルクタイルがひいてあります。毎月第2土曜日や春休み・夏休み・クリスマスには、子ども向けの16mm映画や絵本の読み聞かせなどの「お楽しみ会」を開催しています。10月からは、お楽しみ会のあとにおり紙教室を行なっていますので、一度のぞいてみてください。

窓には来館された子どもさんにぬっていただいたぬり絵を展示しています。また、紙芝居や絵本の数倍の大きさの大型絵本を50冊以上所蔵しています。大きいので書庫に入れていきませんが、一度手にふれて大きさを実感してみてください。



## お知らせ

京都市図書館では「古典の日十一月一日」を記念して、古典資料の特設展示や記念事業を開催します。図書館が所蔵する古典に関する資料を展示しています。より、古典に親しんでみてください。

ぜひ、お越しください。

### 京都市図書館全館

- 十月二十八日(水)～十月十八日(水)まで
- ・古典の特設展示(貸出可)
- ・古典の展示リスト配布

### 中央図書館「本のものごとく」

- ・京都市図書館協議会委員による「古典の日」記念鼎談
- ・ハープ奏者内田奈織氏によるハープ演奏

日時 十月三十日(土)

十五時～十五時三十五分

場所 中央図書館階 児童図書室

ご来館お待ちしております！

落日の日々

**寂光院** 京都バス「大原」下車 徒歩20分

清盛の娘、建礼門院終息の地。



正門



本堂

ある女房が参つて申すには、「大原山の奥、寂光院と申す所は静かでございますよ。」と申したので、「山里は何かと寂しいことはあるさうだが、世間といやなつらい思いをするよりは住みよ、だろ、うよ」といつて、お移りになることを思い立られた。(灌頂巻 大原入り)

清盛ゆかりの社

**若一神社** JR京都線「西大路」下車 徒歩5分  
市バス「西大路八条」下車 徒歩1分

六波羅邸が手狭になった清盛が、当社周辺から現在の梅小路公園にかけての一带に私邸として、西八条邸を造った。



清盛公像



清盛手植えと伝えられる楠



若一神社

平家物語 中かりの地を訪ねて

鹿谷の陰謀

**鹿谷登り口** 市バス5・93・203・204系統「真如堂前」下車 東へ徒歩15分  
市バス32系統「上宮ノ前町」下車 東へ徒歩10分

哲学の道中ほどの靈鑑寺横の細い道。

東山の麓の鹿の谷という所は、背後は三井寺に続いて、絶好の城郭であった。そこに俊寛僧都の山荘がある。そこにもいつも寄り集まり寄り集まり、平家を滅ぼそうとする陰謀をめぐらしていた。(巻第一 鹿谷より)



鹿谷登り口

「此奥俊寛山荘地」の道標

11月1日は古典の日です。

古典に親しんで、平家物語ゆかりの地を訪ねてみてはいかがでしょうか？



いざ昇殿へ

三十三間堂

京都駅より市バス206・208系統「博物館三十三間堂前」下車スグ

清盛の父、忠盛が鳥羽院のために得長寿院を建てたことに倣って、清盛が法住寺殿(後白河院の離宮)の一面に造営して後白河院へ献じた。正式名「蓮華王院」。



三十三間堂

ところが忠盛がまだ備前守であった時、鳥羽院の御願寺である得長寿院を造営して差し上げて、三十三間の御堂を建て、千二体の御仏をおすえ申した。(巻第一 殿上閣討より)

栄華の拠点

六波羅蜜寺

京都駅より市バス206系統「清水道」下車 徒歩7分  
京阪電車「清水五条」下車 徒歩7分

六波羅に平氏の邸があったところから、平氏・平清盛のことを六波羅殿という。



清盛塚



本堂

六波羅殿の二家の公達といつたならば、花族も英雄も、顔を合せ、肩を並べる人はない。だから入道相国の小舅の平大納言時忠卿が言われるには、「この平家一門でない人は、みな人でなしであらう」と言われた。(巻第一 禿髪より)

引用文(現代語訳)は  
『新編日本古典文学全集45,46』  
45(平家物語①=巻第一~巻第六  
46(平家物語②=巻第七~巻第十二、灌頂巻)/小学館より

# 東西古典合はせ

日本の珠玉の古典文学と、同じジャンルの海外の古典作品を対照させてみました。秋の夜長に両者の読み比べをしてみても一興かと…。

【参考文献】  
『集英社世界文学事典』集英社  
『新潮世界文学辞典』新潮社  
『世界文学必勝法』筑摩書房 清水義範著  
『日本古典文学大事典』明治書院  
『日本の古典名著総解説』自由国民社

**古事記** 〓 日本最古の文学作品 〓

稗田阿礼のそらんじていた神代から推古朝に至る歴史を、太安万侶が筆録した。七二年完成。神話・伝記・歌謡などを多く採り、物語的性格が濃い。

**日本書紀** 〓 大和朝廷の正史 〓

神代及び神武天皇から持統天皇に至る編年体の史書。舎人親王の編纂により七二〇年成立。

**万葉集** 〓 日本最古の歌集 〓

天皇から民衆まで様々な階層の歌約四千五百首を収めた、我が国最大・最古の和歌集。大伴家持による私撰集との説もあるが、成立年と共に未詳。

**最も古い文学作品といえは…**

『ギルガメシュ叙事詩』。古代メソポタミアの神話文学。紀元前20世紀頃には既に成立と言われる。史実と伝説・口碑が融合した雄大な物語。

**正史といえは…**

東アジア諸国において、主に国家によって公式に編纂された歴史書。中国初の正史は、前漢の武帝の時代(紀元前1世紀頃)に司馬遷によって編纂された紀伝体の『史記』。

**「漢詩」と「和歌」とは…**

和歌とは漢詩に対する呼称。中国最古の詩集は、儒教の基本経典・五経のひとつである『詩経』。紀元前6世紀頃までの民謡や宮廷音楽・廟歌305篇を収録。

**随筆 〓 エッセイといえは…**

16世紀ルネサンス期のフランスを代表する思想家モンテーニュの『エッセー(随筆録)』(essai)仏語で「試み」を意味する)。自然を楽しむ、自然のままに生きることを謳い上げる。

**最も古い女性の文学者といえは…**

紀元前7〜6世紀頃の古代ギリシャの詩人サッポロ。「アプロディテへの讃歌」など恋愛を主題とした作品が多い。

**戦争文学といえは…**

紀元前7世紀頃のローマの政治家カエサルによる『ガリア戦記』。総督として全ガリアを平定した戦争の報告書。客観的事実のみ記すが、当時より優れた文芸作品として絶賛された。

**説話文学といえは…**

『千一夜物語』はアラビア語で語り継がれたアラブ民間文学の集成。様々な写本があるが、最初期のものは9世紀。妃が王に物語を語るという「枠物語」の形式で、大小170の説話を所収。

**演劇論といえは…**

紀元前4世紀古代ギリシャの哲学者アリストテレスの『詩学』。「ミーメシス(再現・模写)」の見地から叙事詩・悲劇・喜劇を論じている。

**旅行記といえは…**

13世紀イタリアの旅行家マルコ・ポーロの『東方見聞録』。フビライ・ハーンの時代の中国各地を訪れた25年に及ぶ記録。

**戯曲・心中物といえは…**

15世紀イギリスの劇作家シェイクスピアによる『ロミオとジュリエット』。14世紀のイタリアを舞台に、敵対する家に生まれた若い2人の恋愛とその悲劇的な終焉を描く。

**怪奇小説といえは…**

19世紀アメリカの詩人・作家エドガー・アラン・ポーの短編小説『アッシュヤー家の崩壊』。古い館に住む双子の兄妹の呪われた運命を描く、美しい悪夢のような物語。

**珍道中といえは…**

17世紀スペインの作家セルバンテスの『ドン・キホーテ』。騎士道物語に取り憑かれた紳士が巻き起こす滑稽な旅の物語。人間の悲喜劇性の融合という点において、近代小説の出発点となった作品。

**伝奇小説といえは…**

『水滸伝』は16世紀中国明代長編口語小説。総勢108人が梁山泊に集い、悪政に反旗をひるがえす。日本の『南総里見八犬伝』にも影響を与えた英雄譚。

## 江戸時代後期

**東海道中膝栗毛** 〓 無邪気な珍道中 〓

十返舎一九著。一八〇二〜一八二三年に出版。弥次郎兵衛と喜多八の二人の江戸から京都まで東海道の旅の失敗珍事を描く、滑稽本の代表的作品。

**南総里見八犬伝** 〓 伝奇小説の系譜 〓

滝沢馬琴著。一八一四〜一八四二年出版。全九十八巻に及ぶ我が国最大の伝奇小説。里見家の再興を運命づけられた八人の若者の壮大な戦いを描く読本。

## 江戸時代前期

**曾根崎心中** 〓 「世話物」と呼ばれる心中物 〓

大阪で実際に起きたお初と徳兵衛の心中事件をもとに、近松門左衛門が描いた人形浄瑠璃の脚本。一七〇三年初演。男女の愛・町人社会の義理人情を細やかに描き出す出色の作。

**雨月物語** 〓 怪奇小説の白眉 〓

上田秋成著。一七七六年出版。内外の古典・伝説に取材した、九編の怪異談を収録。幽霊や精霊の登場する独特の幻想世界を描く読本。

## 室町時代

**御伽草子** 〓 「めでたしめでたし」の伝承説話 〓

作者・成立年未詳。庶民を対象とした平易な説話的短編小説集で、「浦島太郎」や「一寸法師」など現代まで親しまれる「昔話」を多く所収する。

**風姿花伝** 〓 日本最古の演劇論 〓

父・観阿弥の訓えを世阿弥が著した能楽論書。「花伝書」とも言う。十五世紀初め頃成立。能の原理だけでなく、舞台芸能の芸術論としても秀逸。

**奥の細道** 〓 俳諧と紀行文の調和 〓

松尾芭蕉著。奥州・北陸を経て大垣に至る道中を、簡潔な文章と詩情溢れる俳諧で綴る。芭蕉没後の一七〇二年に刊行。

## 鎌倉時代

**平家物語** 〓 琵琶法師が語る諸行無常の戦物語 〓

平家一門の興亡を流麗な和漢混交文で描いた軍記物語。琵琶で語り伝えられた関係で多くの諸本が伝わり、著者・成立年も未詳。仏教的無常観が貫流、我が国の一大叙事詩と位置付けられる。

## 平安時代

**枕草子** 〓 日常を切り取る視線 〓 随筆 〓

一条天皇の中宮・定子に仕えた女官・清少納言による随筆。十世紀末頃成立。約三百段からなり、宮廷での多くの人々との交流、自然や人生についての随想を理的に洗練された文章で綴る。

**源氏物語** 〓 世界最古の長編小説 〓

一条天皇の中宮・彰子に仕えた女官・紫式部による物語。十一世紀初め頃成立。全五十四帖からなり、光源氏とその子・薫の複雑な恋愛と人間関係、宮廷貴族の生活を華麗に描く。

日本の珠玉の古典文学と、同じジャンルの海外の古典作品を対照させてみました。秋の夜長に両者の読み比べをしてみても一興かと…。

## ◆ 南区 匿名 希望さん（無職）



自分のペースに合わせて楽しめる読書ができ、色々の本がある図書館の空間が好きで、近くにある事もありよく利用します。以前より、読む本の偏りも少なくなり、幅広く読書するようになり量も増えてきました。気軽に借りてくる分、途中で読まずに返却することも多々あるのですが、最近、絵本をよく借ります。大人が読んでもおもしろく美しい絵に気持ちが和みます。秋の夜長子供に読み聞かせていたころの懐かしい物語など楽しみたいと思っています。



テーマ

# 読書の秋

涼しい季節になりました。  
読書の秋を楽しんでください。

## ◆ 伏見区 長沢 雅夫さん（無職）



この年もコスモスの秋巡りけり（拙句）  
大腸と胃、二度の癌をくぐり抜け、68回目の秋を満喫させていただいている。「生きてるだけで丸もうけ」の日々である。目下、吉川英治「三国志」を40年ぶりに再読中。かつては、一週間程で読了したもののだが、何週間かかるものやら。いや、読み終えることができるものやら。甚だ心もとない次第。ただ「秋」を頼りに活字を追っている。  
秋立つや一巻の書の読み残し  
晩年の漱石が、芥川に書き与えた句である。

## ◆ 伏見区 近藤 八重子さん（主婦）



何かのアンケートなどで、趣味欄があれば「読書」と書き入れる人は多いのではないのでしょうか。私もそのうちのひとりです。「読書」は楽しい趣味ですね。一冊の本と少しの時間があれば、ひととき別の人生を生きることもできるのですから。時にはタイムスリップして、平安時代に生きることもできます。涼しい秋になりました。また近くの図書館へ行って、お気に入りの本を探しましょう。今度はどんな人生に会えるでしょうか。

## ◆ 上京区 A・Mさん（会社員）



京都は町全体が美術館であり博物館です。少し歩けば神社仏閣はもちろん記念碑等に出会えます。それらを詳しく知るにはやっぱり本!図書館で歴史の入門書や小説を借り始めると、もっともっとと欲張ってしまい、カバンが重くなることもしばしば。ですがわくわくしながら本を開き、古き時代を新しく知るのには本当に楽しい。今年の秋はガイドブックではなく、歴史書や小説を携えてのお出かけを計画中です。

## ◆ 西京区 小野 幸子さん（主婦）



読みたい本を借りに図書館へ、あいにく貸し出し中です。その時の気持ちはがっかりで、すぐに読みたい気持ちを我慢して、予約をして帰ります。その後、順番が来た時には、待ちこがれた喜びと、少し冷めた気持ちがあったりするので。借りる期限の2週間が、たっぷりの2週間だったり、たったの2週間だったりですが、その都度、その都度、いろんな気持ちもちながら、楽しく利用しています。

## 京図ものがたり vol.21

発行  
平成21年10月

編集・発行  
(財)京都市生涯学習振興財団・京都市中央図書館  
〒604-8401 京都市中京区聚楽廻松下町9-2  
TEL 075-802-3133  
<http://www.kyotocitylib.jp/>  
<http://www.kyotocitylib.jp/i/>



子どもを共に育む  
京都市民憲章



社会のあらゆる場で実践し、  
行動の輪を広げましょう!

編◆集◆後◆記

秋の気配が少しずつ漂い始めた九月某日、平家物語ゆかりの地取材してきました。特に印象的だったのが、最初に訪れた大原・寂光院。市街地を離れ景色がだんだんのどかな田舎の風景となり、ちよっとした旅気分を味わっているうちに、現地へ到着。

そこには、壇ノ浦で入水した我が子・安徳天皇の菩提を弔いながらその生涯を終えた建礼門院の像が、実にひっそりとたたずんでいました。像を眺めていると、一人の女性の悲しい姿が浮かんできます。建礼門院は、この地で何を思いながら時を過ごしていたのか。ふとそんなことを考えました。

平家物語の一部を垣間見た一日でした。

十一月一日は、古典の日です。これを機会にぜひ、京都市図書館で古典文学にふれてみてください。